

宍道湖から見える山々の名称

吉 田 薫

宍道湖の風景と山並み

宍道湖は、面積 79.1km²、周長 47km の日本で七番目の大きさの湖である。汽水湖であり、味のよいヤマトシジミが採れることや、夕日が美しいことで知られる。

宍道湖の南北は、標高 300m～500m 内外の山並みで仕切られているが、湖岸から眺めると、山が湖をとり巻いているような印象である。

本稿は、多くの人々が集まる場所や特に景色がいい場所を視点場として、宍道湖の風景を形成する周辺の山々の名称を明らかにするものである。

視点場①：東岸

－ 1. 宍道湖夕日スポット

夕日スポットには、夕刻、多くの人が集まり夕景色を楽しむ。夕日を眺めるときに自ずと目に入るのは、北山の山並みである（写真 1）。右手の朝日山から左手の鼻高山まで多数の山峰があるが、そのうち主なものについて紹介する。

朝日山は、出雲の国の神名火山四座のうちの一つであり、佐太神社とも関係が深い。本宮山は尖った山頂に電波塔があり目印となる。中世には山城として使われた。旧平田市に位置する大船山は神名火山（神名樋山）だが、他の三座が遠目でも目立つ山容であるのに対し、山頂が分かりにくい。摺木山の山頂には出雲空港の航空路監視レーダーがある。旅伏山には、国引き神話で知られる八束水臣津野命（やつかみずおみつのみこと）が韓国（からくに）に旅し、この山で休息されたという地域伝承がある。鼻高山は出雲北山の最高峰である。



図 1. 位置図

表 1. 宍道湖沿岸から見える山々

視点場と山名	読み方	標高 (m)	距離 (km)	仰角 (°)	備考
視点場①-1: 夕日スポット					
朝日山	あさひさん	341.8	8.6	2.3	神名火山、佐太神社、朝日寺
経塚山	きょうづかやま	316	10.2	1.8	経塚
本宮山	ほんぐうざん	279.4	11.3	1.4	中世城跡、NTT無線中継所
焼山	やけやま	306	17.3	1.0	
鍋池山	なべいけやま	358	17.8	1.2	
大船山	おおふなやま (おおふねやま)	327.2	18.0	1.0	神名火山、烏帽子岩、多久神社
摺木山	すなぎやま (するぎやま)	415.2	23.8	1.0	中世城跡、航空路監視レーダー
旅伏山	たぶしさん	456.5	25.0	1.0	神話、烽火、都武自神社
鼻高山	はなたかせん	536.3	27.4	1.1	出雲市北山の最高峰
視点場①-2: 岸公園					
仏経山	ぶつきょうさん	366.0	23.0	0.9	神名火山、尼子氏寺院跡、NTT無線中継所
大黒山	だいこくやま (さん)	315.3	19.0	1.0	兵主神社(少彦名)
高瀬山	たかせやま	314	20.1	0.9	中世城跡
上野山	うえのやま	236.6	8.3	1.6	中世城跡
馬鞍山(丸倉山)	まくらやま	371.7	13.2	1.6	(大東町) 幡屋三山、中世城跡
大平山	おおひらやま	410.3	12.8	1.8	(大東町) 幡屋三山
八重山(八十山)	はちじゅうざん	407	12.5	1.9	(大東町) 幡屋三山、中世城跡
視点場②: 南岸					
三坂山	みさかやま	535.7	12.5	2.5	松江北山最高峰、気象レーダー
澄水山	しんじさん	507	11.1	2.6	殿さん街道(松江・加賀)、澄水寺、テレビ・ラジオ送信塔
滝空山	たきそらやま	475	11.3	2.4	
大平山	おおひらやま	503	10.6	2.7	中世城跡
真山	しんやま	256.2	7.6	1.9	毛利・尼子戦跡
御的山	おまとやま	332.2	10.6	1.8	佐太神社弓石伝説
洗合山	あらわいさん	40	2.9	0.8	毛利方陣地
視点場③: 秋鹿					
星上山	ほしかみやま	458	18.8	1.4	那富乃夜神社、星上寺、スターバーク
京羅木山	きょうらぎさん	473	21.2	1.3	毛利方陣地
茶臼山	ちやうすやま	171.4	13.1	0.7	神名火山、中世城跡
大山	だいせん	1729	54.7	1.8	出雲富士、大神山神社、大山寺
和久羅山	わくらやま	261.8	13.4	1.1	城址、涅槃仏・メッセン山(頭)
嵩山	だけさん	331	13.6	1.4	烽火、石自伎美神社、涅槃仏・メッセン山(胸)

(注) 仰角は、山の高さと視点場からの距離の比で求めた。



写真 1. 夕日スポットからの眺め

①－２．岸公園

夕日は、12月～1月の間には仏経山周辺に沈む。視点場としては、県立美術館近傍の岸公園が好適である（写真2）。

仏経山は神名火山であり、南山の南端にあること、かつお椀を伏せたような山容であり、遠くからでもよく目立つ。しばしば三瓶山と間違えられる。中世には尼子氏加護の寺院があったと伝えられる。大黒山には、大国主命と少彦名命が山頂で国を豊かにするために相談したという伝説がある。また、大国主命が雨のたびに土が流れて山が低くなることを嘆かれたので、参拝者は砂を持って登るという。高瀬山には中世の城跡がある。大黒山と高瀬山の近くには多数の銅剣や銅鐸が発見された荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡がある。

嫁ヶ島の左手に幾分色薄く見えるのが、雲南市境の幡屋（はたや）三山の馬鞍山、太平山、八重山である。



写真 2. 岸公園からの眺め

視点場 ： 南岸

出雲市から山陰線や国道9号を利用して松江市方面に向かうと南岸より、びょう風のような北山を背景に松江城を中心とした街並みと湖水に浮かぶ嫁ヶ島という、いかにも水都らしい風景を目にすることができる（写真3）。

この位置から見える山々は次のとおりである。

三坂山は松江北山の最高峰である。ここから大平山に至る尾根筋は比較的平坦であり、中国自然歩道がある他、多くの無線施設が設置されている。澄水山は「しんじさん」と読み、宍道

湖を想起させるが命名の理由は不明である。江戸時代には、松江藩の貿易港であった加賀港への山越えのルートとなっており、「殿さん街道」という名がある。真山は戦国時代に毛利・尼子の戦場となった。特に真山は、尼子再興を図った山中鹿之助らの出雲における最後の拠点である。洗合山は標高 40m ばかりの丘陵であり、毛利元就が陣を構えた。



写真 3. 南岸からの眺め

視点場 : 秋鹿

冬の天気の良い日は、空気中の水蒸気量が少なく、はるか遠方まで見通しが利く。宍道湖北岸中央部の秋鹿から出雲富士の呼称のある大山までは 55 km の距離があるが、その姿がくっきりと見える。秋鹿港の埠頭は、宍道湖十景の一つ「秋鹿の出雲富士」の絶好のビューポイントである。

右より修験道場があったという星上山。今はスターパークが運営されている。隣接する京羅木山は月山富田城攻めの際の毛利方の陣地が置かれた。茶臼山は神名火山（神名備野）であり、また中世の城跡がある。この風景の中心となるのはいうまでもなく大山であり、雪を頂いた高峰の姿はまことに美しい。



写真 4. 秋鹿からの眺め

嵩山・和久羅山はその形状より、昔は涅槃仏ともメツチェン（女性）山とも呼ばれた。玉造辺りから眺めると、市街地の背後に位置して特徴のある山容がよく目立つ。嵩山・和久羅山は、反対側の大根島方面から眺めても、同じ形

写真 5. 嵩山・和久羅山



に見える（左右逆だが）。珍しいことではないかと思う。

総括

山名を整理すると、訓読みの名称と音読みの名称が不規則に混在しており、フリガナがないとまず正確には読めないだろう。例えば「山」の一字さえも、「やま」「さん」「ざん」「せん」と四種類もの読み方がある。音読みの名称は相対的に新しいと推察するが、かといって訓読みの呼称が風土記時代から続いているというわけでもない。

宍道湖の平遠で落ち着いた雰囲気は、遠くまで見通しが利くことと低い連山（仰角 $1\sim 2^\circ$ ）による困憊感（いによかん、囲まれた感じ）によるところが大きいと思われる。東岸から見る朝日山や南岸からの北山は仰角 2° を超えて高い感じがするが、出雲富士の呼称をもつ大山は 1.8° であり、目立つ目立たないは、周囲との相対的な高低によるところが大である。

古代出雲の謎

宍道湖から見える山で最も神聖な山は、国引き神話のある大山と三瓶山である。次いで四座の「神名火山」、茶臼山、朝日山、大船山、仏経山であろう。

造化の妙は、大山と茶臼山、三瓶山と仏経山がそれぞれ相似形をしていることである。また、なぜ目立たない大船山が神名火山に選ばれたのだろうか。

ずっと気になっていたが、最近あることに気が付いた。それは、大山→茶臼山の線上に大船山、三瓶山→仏経山の線上に朝日山が位置することである。このような理由で、古代人にとって大船山と朝日山は特別な場所であり、山ではなかったか。

目印となる山頂を結ぶという手法を敷衍すると、前述の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡の場所を特定することができる。すなわち、荒神谷遺跡は仏経山～朝日山を結ぶ線と大黒山～弥山（出雲大社背後の山）を結ぶ線の交差部、加茂岩倉遺跡は仏経山～大山を結ぶ線と大黒山～船通山（スサノオ降臨の地）を結ぶ線の交差部に位置する。ピンポイントとはいかないが、谷は特定できる。

果たして偶然であろうか。ともかく、宍道湖の山並みは様々なことを想像させる。



写真 6. 大山と茶臼山（湖上より）



写真 7. 仏経山と三瓶山（北岸西部より）